



磐田市沿岸部 未来ビジョン

磐田市
令和7年3月

目次

CHAPTER

1

はじめに

- ・ 策定の背景と目的 . . . P1
- ・ ビジョンの位置づけ . . . P2
- ・ ビジョンの対象エリア . . . P3

CHAPTER

4

ビジョンの実現に向けて

- ・ ビジョンの実現に向けた役割分担 . . . P14
- ・ 行政の役割 . . . P15
- ・ ロードマップ . . . P16
- ・ 沿岸部の将来イメージ . . . P19

CHAPTER

2

沿岸部の現在と将来像

- ・ 沿岸部を取り巻く状況 . . . P4
- ・ 活用したい資源例 . . . P7
- ・ 地域資源マップ . . . P8
- ・ 沿岸部の将来像について . . . P9

CHAPTER

5

おわりに

- ・ おわりに . . . P20

CHAPTER

3

沿岸部のテーマと取組方針

- ・ 将来像の実現に向けた3つのテーマ . . . P10

策定の背景と目的

本市の沿岸部では、東日本大震災をきっかけに津波への不安等を理由に人口流出や地価の下落などが長らく続いていました。

そこで、津波避難タワーを併設した渚の交流館や防潮堤の整備など、津波の被害が想定される地域の負のイメージを払拭し将来に向けた対策を進めてきました。

その中で、令和8年度に海岸防潮堤整備（市施工分）完成の目途が立ち、今後は防潮堤を含む地域資源の利活用や次世代産業の進出など、沿岸部への関心がさらに高まることが見込まれます。

磐田市沿岸部未来ビジョン（以下、ビジョン）は、本市の沿岸部が、暮らす人、働く人、訪れる人にとってさらに魅力的なエリアとなるよう、現在の地域資源を再確認するとともに、地域の未来に関心を持ち、考える指針となることでその利活用方法など新たな可能性を創出することを目的に策定するものです。



ビジョンの位置づけ

沿岸部の活性化については、総合計画を上位計画とし、都市計画マスタープランや地域防災計画などの関連計画と整合を図りながら検討を進めていきます。

上位計画

第2次磐田市総合計画

沿岸部
未来ビジョン

整合

- ・ 磐田市都市計画マスタープラン
- ・ 磐田市津波防災地域づくり推進計画
- ・ 第2次磐田市環境基本計画後期計画
- ・ 磐田市地域防災計画
- ・ 磐田市経済産業振興プラン
- ・ 磐田市文化財保存活用地域計画
- ・ 磐田市公共施設等総合管理計画 など

ビジョンの対象エリア

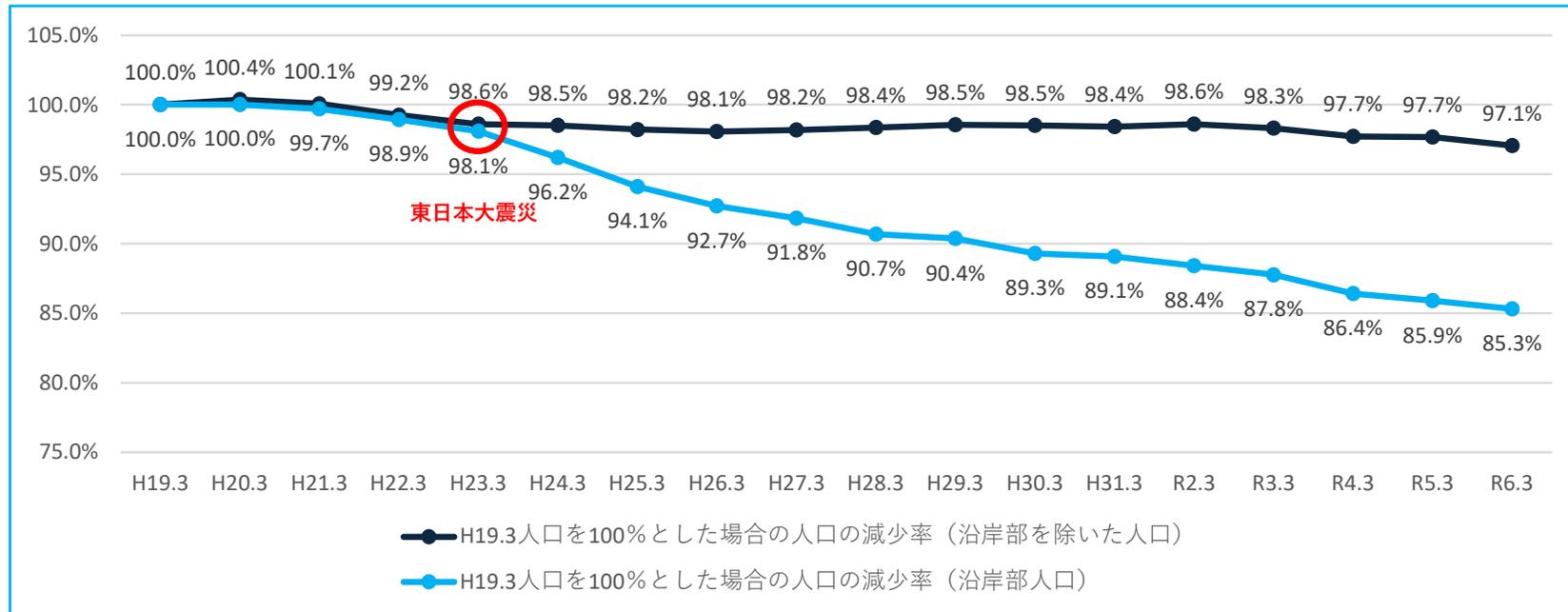
本ビジョンの対象エリアは、概ね国道150号の南側とします。



出典：地理院タイル(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

沿岸部を取り巻く状況

【人口の状況】



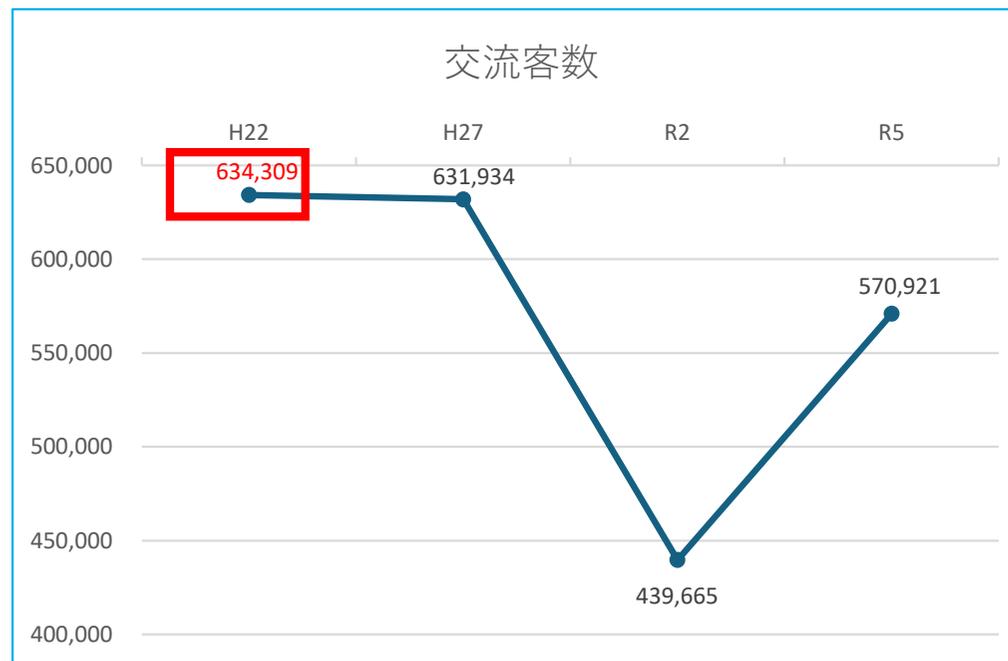
沿岸部の人口は、概ね国道150号以南である天竜・於保・長野地区のうち鮫島、浜部、福田地区、竜洋地区の人口とし、住民基本台帳より作成

市の沿岸部を除いた人口と、沿岸部人口の減少率を比較すると、その減少率に大きな差があることが分かる。沿岸部の人口減少率は、沿岸部を除いた地域の約3.3倍となっており、特に平成23年から平成27年の期間で、沿岸部の減少率が顕著に高くなっている。沿岸部の急激な人口減少は、東日本大震災の影響が大きいと推測される。

沿岸部を取り巻く状況

【交流客数の状況】

(人)



平成22年度から沿岸部に立地する施設やイベント等の交流客数から作成

沿岸部の年間交流客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に439,665人まで減少しており、令和5年度には増加傾向にあるものの、コロナ禍前の交流客数には届いていない。

沿岸部を取り巻く状況

【近年の動き】

安全な未来へ、防潮堤完成まであと一歩

10年にわたる防潮堤整備事業が、令和8年度に完成予定。
安全・安心な沿岸部の実現へ。



新産業が沿岸部に集結

エビの陸上養殖や空飛ぶクルマの製造など、
革新的な事業者が沿岸部に進出し、地域経済に新風。



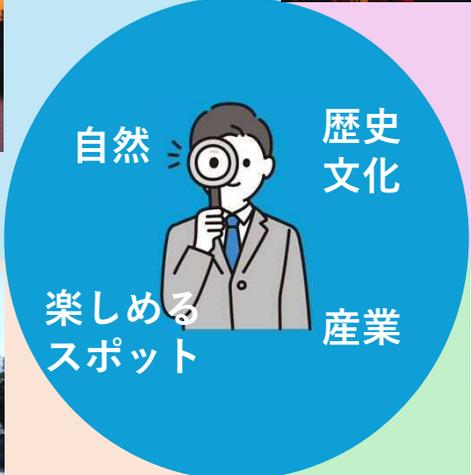
漁港の可能性が広がる、法改正で多目的利用へ

令和6年4月1日に施行された改正漁港漁場整備法により、
漁港の多目的利用が可能に。
新たな沿岸部活用の機会が広がる。



活用したい資源例

沿岸部には、豊かな自然や、大切に受け継がれてきた歴史文化、市内外の方々が楽しめるスポット、魅力的な産業などの地域資源が存在しています。これらの地域資源を踏まえて、将来に向けたまちづくりを進めます。



地域資源マップ



磐田市観光ガイドブック「トラベルトランク」、磐田市市勢要覧2023、
磐田市文化財案内図より抜粋

出典：地理院タイル(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

沿岸部の将来像について

沿岸部の多彩な産業や自然、そこに関わる人々の活動や想いを結び付けて、それらを継続的に発展させていくとともに、次世代に向けての新たな挑戦を支援することで、エリア全体の魅力をさらに磨き上げ、これまで以上に多くの人々が集まるエリアを目指し、沿岸部の将来像を以下のとおりとします。

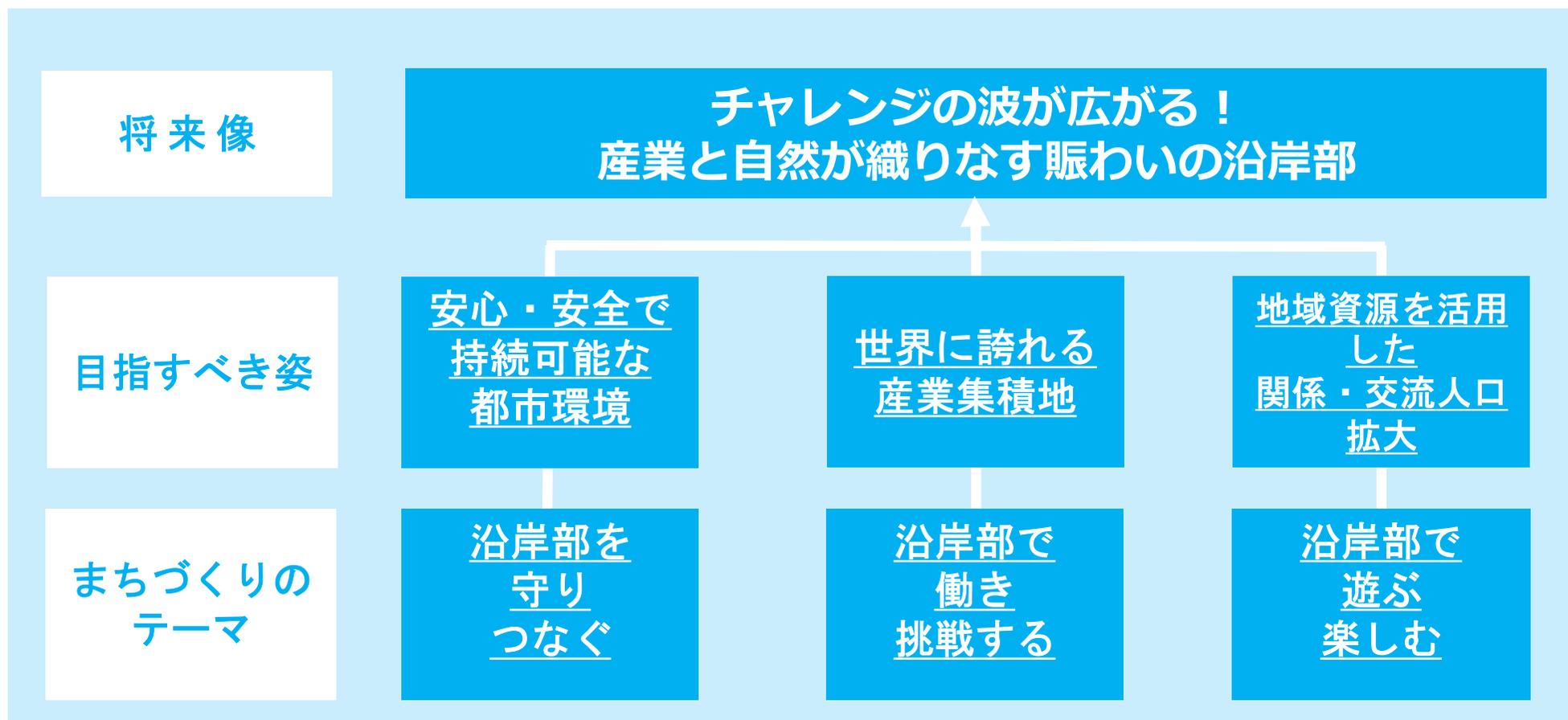


**チャレンジの波が広がる！
産業と自然が織りなす賑わいの沿岸部**



将来像の実現に向けた3つのテーマ

沿岸部のまちづくりの方向性として3つのテーマを掲げ、将来像に向けた取組を進めます。



目指すべき姿

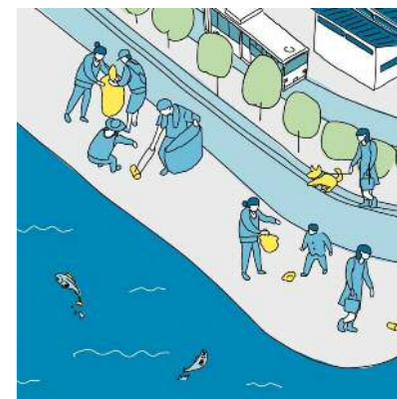
安心・安全で持続可能な
都市環境

まちづくりの テーマ

沿岸部を守り・つなぐ

ポイント

- ・令和8年度に防潮堤完成予定
- ・自然環境や歴史文化の次世代への継承
- ・地域コミュニティの維持



取組 方針

方針1 大規模地震・津波対策の推進

防潮堤の完成に向けて確実に整備を行うとともに、更なる安全対策を推進します

方針2 自然環境と歴史的資源の保全と活用

様々な主体との共創による自然環境の保護や、歴史的資源の保全・活用を通じて、持続可能で豊かな未来を守り、次世代へつなげます

方針3 地域コミュニティの維持・活性化

地域の絆を深め、多世代が共に支え合う持続可能なコミュニティを育みます

目指すべき姿

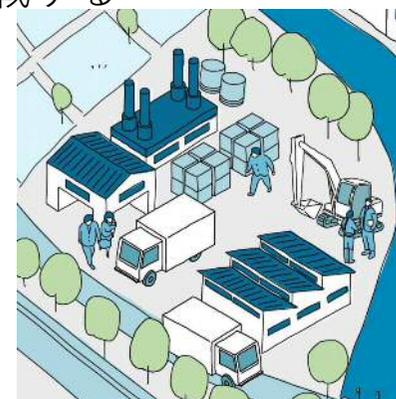
世界に誇れる産業集積地

まちづくりの
テーマ

沿岸部で働き・挑戦する

ポイント

- ・ 多様な業種・業態の企業誘致の促進
- ・ 既存産業の経営安定化
- ・ 雇用の創出



取 組
方 針

方針1 新たなカーボンニュートラル産業用地の確保

民間活力を活用したCO2排出量削減に配慮した産業用地を確保し、製造業に次ぐ基幹産業の創出など、産業の拠点づくりを目指します

方針2 次世代産業を切り口に世界へ最先端技術を発信

スマート農業や陸上養殖をはじめ空飛ぶクルマなどの次世代産業等の集積と既存産業とのマッチング促進、最先端技術の発信によりスタートアップ企業等の誘致を進めます

方針3 世界に誇れる技術開発の実装支援

企業や研究機関が新技術の開発に向けて実証実験ができる機会を提供するなど、世界に通用する技術開発を支援します

目指すべき姿

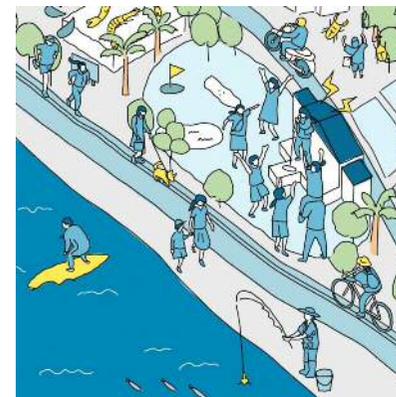
地域資源を活用した
関係・交流人口拡大

まちづくりの
テーマ

沿岸部で遊ぶ・楽しむ

ポイント

- ・各スポットの磨き上げ
- ・回遊性が不十分
- ・新たな賑わいの創出
- ・沿岸部への交通網の整備



取組
方針

方針1 施設の魅力創出

官民連携により施設や環境の魅力を向上させ、賑わい創出を目指します

方針2 回遊性の向上

交通網を整備し、地域資源を有効活用したエリア全体を周遊できる事業の展開を検討します

方針3 更なる賑わいの創出

官民連携によりスポーツや音楽など地域資源を活かしたイベントを実施します

ビジョンの実現に向けた役割分担

民間（市民・事業者）と行政、どちらかの働きだけではビジョンの実現は困難です。それぞれの強みを認識し、その役割を果たすこと、官民でしっかりと連携していくことでビジョンの実現が可能となります。

民間の役割

市民	事業者
沿岸部の地域資源を活かした魅力的なコンテンツづくり	
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活環境や、自然環境、地域資源などに対する意識を高める まちづくりについて話し合ったり、楽しくできることから実践 地域活動への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 民間の持つ多様なノウハウや技術を活用した事業提案 利益の再投資による事業の継続的な運営 企業連携や地域連携、官民連携による新たな事業の検討



共創による
まちづくり

行政の主な役割

- ・ 広報機能の強化
- ・ 計画的な公共施設の管理
- ・ 官民連携の推進
- ・ 多様な手法による支援

行政の役割

広報機能の強化

市民をはじめ多くの方に向けて本市の関心を高めるため、様々な情報を発信するほか、市政や本市の魅力を、SNSなどのさまざまな媒体を活用し、分かりやすく提供します。

また、関係人口の創出・拡大に向けた取組みを推進します。

官民連携の取組推進

行政と民間企業が協力し、それぞれの強みを活かしながら、地域課題の解決や新たな価値創造を目指します。

計画的な公共施設の管理

財政負担の平準化と施設の有効活用を図るため、市有施設の管理コストを把握し、計画的な維持管理・更新を行います。

多様な手法による支援

多様な主体との共創による展開に向けて、情報提供や交流機会の創出、ガバメントクラウドファンディングを活用した支援などを検討します。

ロードマップ

将来像を見据えながら、できることから段階的に進めていきます。
なお、これらはイメージであり確定した計画ではありません。

まちづくりのテーマ

沿岸部を守り・つなぐ

前期
(R7年～R12年)

後期
(R12年～)

方針1 大規模地震・津波対策の推進



防潮堤整備



観光客など誰にでもわかりやすい
避難誘導経路や案内標識の整備検討



鮫島駐車場整備

方針2 自然環境と歴史的資源の保全と活用



歴史的資源の保全



自然環境を守る活動の推進と支援



環境教育の充実



再生可能エネルギーの利活用促進

方針3 地域コミュニティの維持・活性化



沿岸部を対象とした
移住体験ツアーの開催



パブリックスペースを活用した
エリア内の交流や活動の促進



空き家等を活用した沿岸部の暮らしを
体験できる施設整備の検討

沿岸部で働き・挑戦する



方針1 新たなカーボンニュートラル産業用地の確保



産業用地開発可能性調査



開発事業者の掘り起こし



関係機関等との協議



カーボンニュートラル産業用地

方針2 次世代産業を切り口に世界へ最先端技術を発信



次世代産業等の継続的な誘致

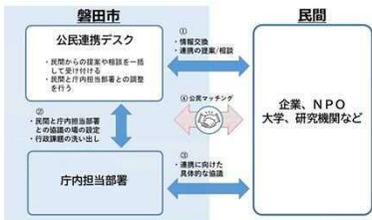


既存産業とのマッチング促進



次世代産業の産物・技術をパッケージ化し海外展開にチャレンジ

方針3 世界に誇れる技術開発の実装支援



公民連携デスクの推進



実証フィールドの提供



行政保有データの提供



前期
(R7年～R12年)

後期
(R12年～)

方針1 施設の魅力創出



歴史的建造物の活用



渚の交流館
バイク乗りの聖地へ



官民連携による施設整備

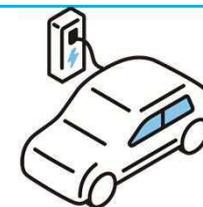
方針2 回遊性の向上



ビュースポットの発信



太平洋岸自転車道を活用した
サイクリングツアー等の企画



次世代モビリティ導入検討

方針3 更なる賑わいの創出



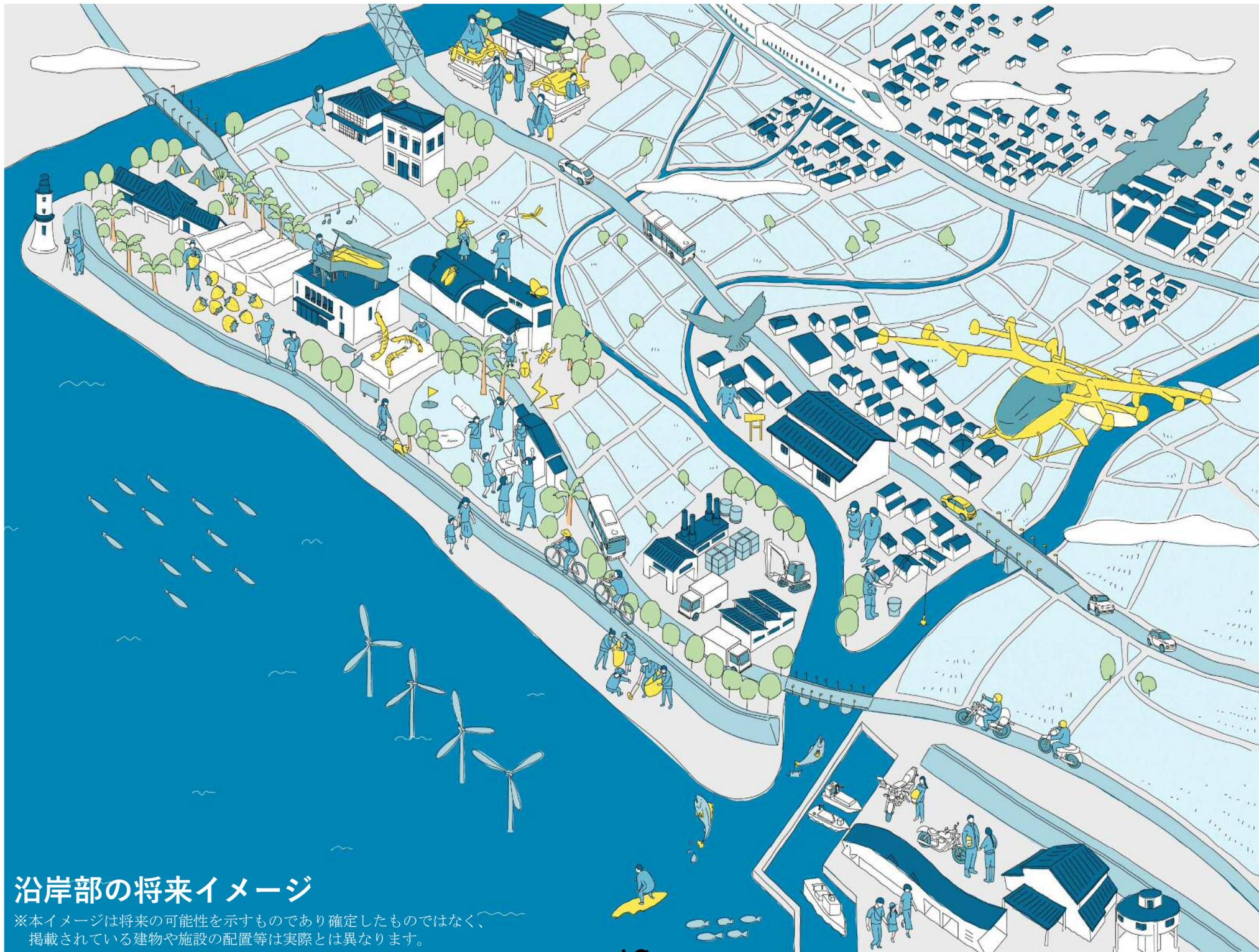
自然環境を活かした
スポーツイベントの実施



大型フェス等の開催



大規模大会等の誘致



沿岸部の将来イメージ

※本イメージは将来の可能性を示すものであり確定したものではなく、掲載されている建物や施設の配置等は実際とは異なります。

本市は、このビジョンにより、本市の沿岸部に関わる方が目指す姿を共有し、それぞれの特徴を活かして新しい可能性を創り出していきます。

なお、変化する社会情勢や市民ニーズへの的確かつ柔軟に対応ができるよう、必要に応じてビジョンの見直しを行い、このエリアのさらなる活性化を進めていきます。

磐田市沿岸部未来ビジョン
令和7年3月

磐田市企画部政策推進課
〒438-8650 静岡県磐田市国府台3-1
電話：0538-37-4805 FAX：0538-36-8954
メール：kikaku@city.iwata.lg.jp